

平成24年度第1回いしかわ森林環境基金評価委員会の概要

1. 日 時：平成24年7月24日（火） 13:30～
2. 場 所：県庁行政庁舎 1109 会議室
3. 出席状況：委員 10 名（梶委員は代理出席、平田委員は欠席）
4. 議 題：(1) いしかわ森林環境基金事業の主な取組実績(平成 19～23 年度)
(2) いしかわ森林環境基金事業の第二期(平成 24～28 年度)取組内容
(3) 他県の森林環境税等の取組状況
(4) 環境林モニタリング調査、侵入竹林の駆除と森林化技術の確立について
5. 委員会議事要旨（委員の主な意見等）
 - ・これまで5年間の実績が計画以上に進んだ要因は何か。
→森林所有者の負担がないので理解が得られやすかった等の要因が考えられる。
 - ・強度間伐後は森林が明るくなり、下層植生がどんどん生えてきており、計画どおりの森林になってきている。
 - ・モニタリング調査は長い時間をかけて実施しなければならない。時間が経てば経つほど重要なことがわかってくるので、間伐実施箇所の今後の動態変化を長期的に把握していくような調査が実施できるよう予算や人員配分を要望する。
 - ・間伐材が切り倒された部分には植生が生えないと思うが、どれくらいで木材が朽ちるのか。
→10年ぐらいはそのままの状態に近い。
 - ・基金設置の趣旨が、より理解されるよう、今後とも普及啓発に努められたい。
 - ・竹の駆除について、薬剤注入の方法はどのような結果になったか。
→薬剤を注入した竹は枯れるが、新竹が生えるので、完全に駆除するには土壌散布の方が有効。その際、ラウンドアップは広葉樹も枯らすが、クロレートは選択的にイネ科(竹)のものを枯らす特性がある。
 - ・竹の薬剤駆除について、タケノコなどは安全なのか。また、安全性をモニタリング調査などで十分検証して欲しい。
→事業対象はタケノコ生産として管理できない竹林を想定しているが、地元での合意形成等ルールづくりは必要。基本的に土壌中で分解されるので、安全上の問題はないと考えられるが、モニタリング調査は検討していきたい。
 - ・県産材を使用した木製品への支援事業の対象者は。
→PR効果を最大限高めていくような取組であれば、なるべく幅広く公募したい。
 - ・第二期計画の5年間で11,600 ㍉を整備する計画で、7,000 ㍉が伐捨間伐、4,600 ㍉が利用間伐だが、変動要素はあるのか。
→間伐材の需給動向や収支状況により変わりうる。利用間伐ができる分は可能な限り利用間伐を行う。それにより、竹林対策等を有効に実施できる。
 - ・シカの食害について情報をお聞きしたい。
→福井県まで被害があると聞いているが、森林に対する被害はシカが大きいので、情報を収集しながら早めに対応したい。